



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

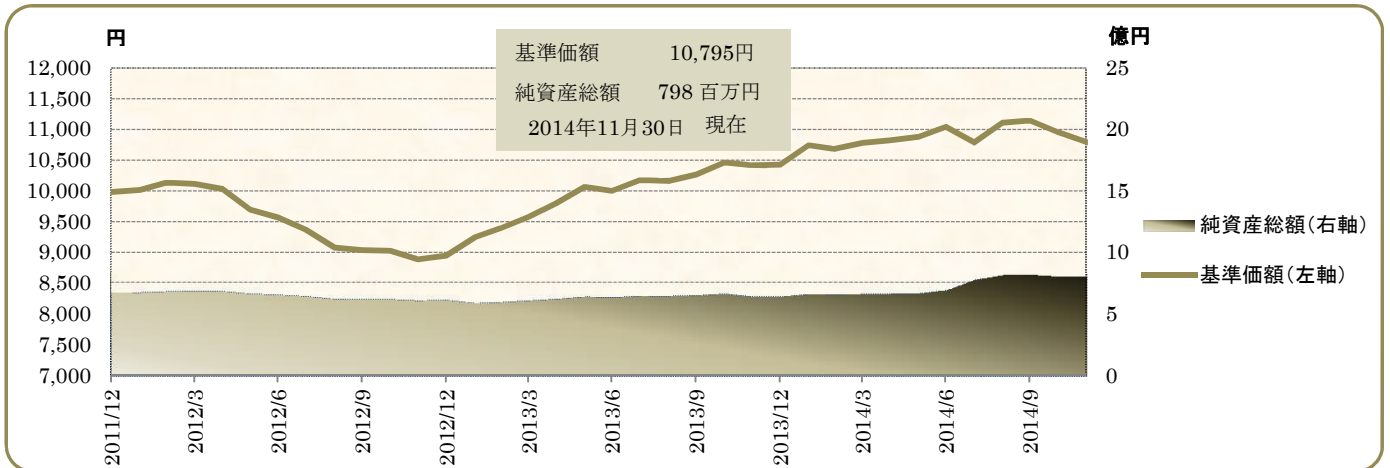
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2014年11月30日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

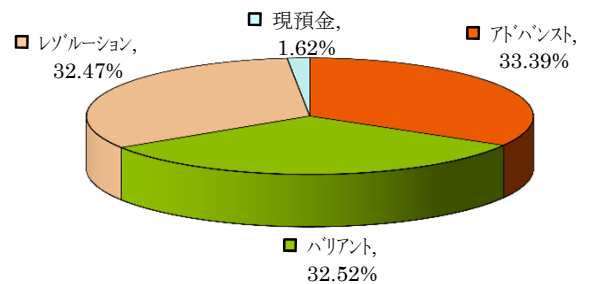
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%		3.56%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%
2012	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	0.28%	1.22%	-0.21%	-0.83%	-3.36%	-1.32%	-2.12%	-3.02%	-0.45%	-0.17%	-1.51%	0.66%	-10.40%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2014年11月30日	
基準価額:	10,795円	対前月比 -158円
純資産総額:	798百万円	対前月比 -2.6百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-2.82%
基準価額騰落率	6ヶ月	-0.79%
設定来	ファンド	7.95%
基準価額騰落率	TOPIX	94.92%
	日経平均	107.81%

投資対象ファンドへの資産配分 (2014年11月30日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%		6.72%
ウイズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%		5.03%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%		14.36%
アドバンスド	3.59%	1.01%	0.60%	2.15%	1.23%	2.72%	-1.24%	3.30%	-0.11%	0.03%	-0.40%		13.51%
バリエーション	7.64%	0.92%	3.59%	3.63%	1.89%	5.28%	-2.17%	2.07%	0.65%	-0.96%	-2.24%		21.72%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウイズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%
アドバンスド	7.06%	6.89%	2.79%	6.39%	5.21%	4.71%	4.15%	0.84%	1.20%	1.91%	-2.71%	1.61%	47.65%
バリエーション	11.36%	2.57%	1.43%	14.44%	7.46%	1.93%	3.77%	0.67%	0.51%	3.33%	-5.39%	3.07%	53.66%

* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

* アドバンスドとバリエーションの騰落率は、2014年6月以前はJPY-Sクラス、2014年7月以降はJPY-Fクラスの騰落率です。年初来の収益率は月次収益率を時間加重したものです。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

11月の株式相場は、日経平均で6.37%上昇の17,459.85円、TOPIXで5.75%上昇の1,410.34ptとなりました。日銀追加緩和やGPIFの資産配分見直し、消費税引き上げ延期を受けて大幅に上昇し、年初来高値を更新しました。

上旬は、前月末に発表された日銀の追加金融緩和やGPIFの株式配分増加による株価上昇の勢いが保たれ、大幅な上昇で始まりました。米中間選挙で共和党が上下両院で過半数を獲得し円安・ドル高傾向となったこと、NYダウが史上最高値を更新したことも株高を後押ししました。海外投資家による先物買いが急増し、先物主導の上昇相場となりました。

中旬は、7-9月期の実質GDP成長率が前期比年率-1.6%となり、実体経済の悪化が確認されたことから大幅安となる局面もあったものの、円安基調の継続や衆院解散・総選挙、消費増税の延期が好感され、再び上昇に転じました。

下旬は、中国の利下げやOPECの減産見送りによる原油価格の下落加速などを背景に底堅く推移しました。原油下落の恩恵を受ける空運や海運などの上昇が目立ちました。

東証一部の1日当たり売買代金は、2.8兆円の高水準となりました。需給面では、外国人が買いの主役となりました。11月第1-3週の海外投資家による買い越し金額は先物・現物合計で3.2兆円に達しました。

セクター別騰落率では、繊維製品、海運業、空運業、ゴム製品、輸送用機器が上位となり、鉱業、石油・石炭、不動産業、情報通信、医薬品が下位となりました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【レゾリューション】

〈ファンド運用状況〉

11月の株式市場は、先月に続き小型株の劣位に推移しました。大幅な円安進展をうけて、特に輸出関連の大型株が物色される一方で、ネット関連などのサービス系小型株はバリュエーションの低下が見られ、割安な製造業も全体として放置された状況にあります。

ポートフォリオは、医薬、化学、サービスなどのセクターをオーバーウェイトし、小売、電機セクターをアンダーウェイトしました。また、小型株ロング、大型株ショートの状態を維持しました。

市場競争力のある半導体関連銘柄で成長の続くJCU(4975)やJマテリアル(6055)のロングがプラス寄与し、テクノロジー小型株や一部高バリュエーション銘柄のショートが寄与となりました。

ロング銘柄中心に収益確保がなされた一方で、小型株全体のバリュエーション低下の中で、十分な収益確保に至りませんでした。短期間での極端な小型株劣位は、年に1度あるぐらいの特殊な状況といえます。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

外部環境のリスクを意識しながらも、底堅い相場展開となっています。

極端に売買回転率の高い銘柄が買われるような、ファンダメンタルから乖離した値動きは修正されつつありますが、一方で割安株を買う動きは限定的なものとなっています。

極端な小型株劣位の状況は、バリュエーション面や成長性の観点から、いずれ修正されるべきものについては見直されるものと考えます。

第2四半期決算が終わり、来期を意識した銘柄選択に視点が移ることを想定します。

引き続き、来期業績を考慮した、定性的なプレミアム付与が可能なグロース性を重視した銘柄選別を行います。

業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大余地の大きい割安銘柄の組入を行います。

成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

【アドバンスド】

〈ファンド運用状況〉

11月の運用成績はJPY-Fクラスで-0.40%でした。外需割安株が好パフォーマンスとなる一方で、素材・内需の割高株が総じてアウトパフォーマンスしたことでファンド収益を押し下げました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションではアルプス電気(6770)、マツダ(7261)、ショートポジションではユナイテッドアローズ(7606)、サンドラッグ(9989)がプラス収益に寄与しました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

12月の株式市場は上昇を予想します。円安の進行や原油価格下落による企業業績の上方修正期待、日銀の追加緩和に続いて中国が利下げに踏み切るなど世界的な金融緩和モードを背景に株価の先高期待が一段と高まると予想します。但し、衆議院選挙で与党が大幅に議席を減らすことになれば株価の下落要因となります。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用したファンダメンタルズ分析に加え、ペアトレーディング戦略、インデックス入れ替えに伴うイベントドリブン戦略による銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【バリエント】

〈ファンド運用状況〉

11月の運用成績はJPY-Fクラスで-2.24%となりました。自動車、精密セクターのロングポジションはプラスに寄与しましたが、11月中旬以降化学セクターや機械セクターでのマイナスが大きくなったことや、中小型株が引き続きTOPIXをアンダーパフォーマンスしたことがマイナスの要因となりました。

セクター別の損益は、自動車、小売り、精密セクターでプラスとなり、化学、機械、食品セクターでマイナスとなりました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

12月の株式市場は緩やかに上昇すると考えます。テクニカル指標面では過熱感があるものの、円安傾向が続いていることや、原油価格の大幅な下落もあり企業業績の改善が今後も続くと考えられます。また、下落局面では日銀による大量のETF買付があると考えられ、当面は堅調な相場展開が続くと思われます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。